

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般-123

学校名・団体名	伊仙町立鹿浦小学校
HPアドレス	http://www.t2.toku-vision.com/~shikaurasyo
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	子どもの主体的な学びを促進する タブレット端末の活用
<p>〈活動・研究の意義, 目的〉</p> <p>本研究を通して、以下のような児童の姿・教師の姿への変容を目指して取り組んだ。</p> <p>(1) 目指す児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none">ア 児童一人一人が、個に応じた確かな学力を身に付け、「できる」「わかる」を実感できる。イ 複式学級における学び方を身に付け、主体的・協働的に学習に取り組むことができる。ウ ICT機器の基本的な操作に慣れ、目的に応じてデジタル教材やソフト、各種コンテンツを活用できる。エ 学校・家庭それぞれの学習が、相乗的に生かされる。 <p>(2) 目指す教師の姿</p> <ul style="list-style-type: none">ア 共通理解・共通実践事項をもとに、学習規律や基本的な学び方について、全ての学級で同じように指導する。イ 指導力向上のため、創意工夫しながら、積極的に研修・教材研究に努める。ウ ICT機器を効果的に活用した授業を進めることができるようになる。エ タブレットPCを含めたICT機器活用に関する研修成果を、他校にも広げていこうとする。	

本校の研究において、以下のような実践を行い、研究授業等を通してその効果を検証し、日常の実践に生かすようにしている。

1 大型テレビによる学習課題の提示 【6月26日・9月15日 研究授業実践より】

学習課題を「つかむ」段階でデジタル教材を使って、教師タブレット画像を大型TVへ転送し、動画による課題提示を行った。子どもたちはストーリー性のある動画で、既習学習とのつながりを意識し、本時の学習内容を焦点化するとともに解決の見通しをもつことができた。

2 自作教材（パワーポイント）による解説や課題の提示 【10月24日 研究授業実践より】

大型テレビによる提示は、PCで作成した自作教材を写すことができ、線を1本接続するだけでできる容易で、利便性の高い方法である。本事例では、複合立体（図形）の体積のどのように求めればよいかということの説明にパワーポイントを活用している。等積変形の考え方や倍積変形のように、図形を動かすことでその考え方（性質・メカニズム）を理解することができるような学習の場合、特にその効果が高いことが分かった。

3 習熟（練習問題）段階におけるタブレットの活用 【6月15日 研究授業実践より 日常的に実践】

3年生の学習したことを演習で「たしかめる」段階で、デジタル教材「ランドセル」を活用し、タブレットによる問題練習を行った。児童の中には計算を苦手とし、なかなか自分から練習をしようとしめない者もいるが、タブレットを使うことで、分からないところはヒントをもらいながら自分のペースで進められるため、たいへん意欲的に取り組むことができていた。

4 タブレットの動画撮影機能を活用した発表や動きの自己点検 【5月～2月 日常の授業における実践】

タブレットの動画撮影（カメラ）機能を活用することで、学習のねらいにより近づくことができた。具体的には、①これから人前で話そう（発表しよう）とする内容を確認したり、②体育の学習で自分の運動の様子を確認したりできるということである。映像で可視化されることで、自分自身で見て確かめ、客観的に振り返ることで、よくできたところや改善点を、自己点検に役立てることができる。動画（画像）だけでなく、音声についても同様のことが言える。実践例はまだ少ないが、技能面の習得に関しては高い効果を発揮する活用法と言える。

5 画像の記録 【5月～2月 日常の授業における実践】

一度撮影した画像を記録しておくことで、時間内に観察・記録作業が終わらなかった場合の続きの作業を後日スムーズに始められたり、学習の記録を残しておくことで、本時導入（前時の振り返り）などへの効果的な活用が図られたりした。

6 「ぼうけんくん」の活用 【2月2日 研究授業実践より】

虫眼鏡型デジタルカメラ「ぼうけんくん」の主な機能は、撮影した画像を最大6枚まで大型TVに一斉に提示でき、さらに選んだ画像を一つずつ大きく映し出せるというものである。児童の考えを画像として取り込み、一斉に大型TVに提示することで、一人一人の考えを比較・検討し、学習のまとめにつなげることができた。

7 家庭学習における活用 【5月～2月 画像撮影や問題練習】

児童が意欲的・主体性に取り組むとともに、学習内容の定着、学習時間の伸びを期待して、タブレットを持ち帰らせ、家庭学習に活用させている。児童に授業で使ったコンテンツやデジタル教材「ランドセル」を課題として与え、取り組ませた結果、宿題のみならず、予習に取り組む児童や自分の苦手なところの振り返りに活用する児童が見られるようになった。

8 研究の成果

- (1) 年度当初に学習規律や学び方、学習過程や基本的な指導法の共通理解を図ったことで、共通実践につながり、児童自身も学習の進め方を理解し、定着しつつある。
- (2) 教児ともにタブレットの活用場面を理解し、活用技能が高まってきている。
- (3) 複式学級（3～6年）だけでなく、単式学級（1・2年）でもガイド学習を取り入れた授業が段階的・計画的に進められており、複式学級に移行しても対応できる児童の育成が進められている。
- (4) 日常の実践や先行研究・研修会の参加により、今ある環境の中でできるICT機器の活用法を共通理解し、実践につなげることができた。それが、児童の主体的で意欲的な学びや学力の定着につながっている。
- (5) 導入・終末場面における機器の活用や、間接指導につなげる発問の工夫が図られるようになり、間接指導時に児童が教師を頼らず主体的に学習する場面が多く見られるようになった。
- (6) 問題練習や記録など、家庭での活用についても、一定の成果が得られた。